

阪神高速道路の長期維持管理及び更新に関する技術検討委員会
第3回委員会 議事要旨

日時：平成25年1月28日（月）14:00～16:20

場所：阪神高速道路（株）11F 会議室

出席：委員長：渡邊 英一（京都大学名誉教授）

委員：小林 潔司（京都大学経営管理大学院 教授）

杉浦 邦征（京都大学大学院工学研究科 教授）

西井 和夫（流通科学大学総合政策学部 教授）

森川 英典（神戸大学大学院工学研究科 教授）

議事：

1. 第2回委員会議事要旨の確認
2. 検討構造物の抽出と劣化予測
3. その他

主な意見：

- ・ 鋼桁端部腐食は、材料が改善され新設構造物は対応が可能であるが、都市内の既設構造物については工法的な制約があり抜本的な対策が必要ではないか。
- ・ 鋼桁疲労は、既に累積疲労を受けているため、通常の補修以上に抜本的な対策が必要ではないか。
- ・ 大規模修繕や大規模更新をする場合には、従来と同形式・構造にこだわらず、メンテナンスを考慮した構造を採用すべき。
- ・ 鋼桁端部は、PC 構造物と同様、伸縮継手からの漏水や凍結防止剤による塩化物の侵入を抑制することが重要であり、技術開発が望まれる。
- ・ 在来工法によるトンネルについては、コンクリートの品質や、裏込め部の空洞の問題に対処することが重要である。
- ・ 東日本大震災でゴム支承の破断事例があったが、今後、支承の損傷状況を踏まえた検証が必要ではないか。
- ・ 今後100年の管理を考えると、想定外の事象や構造物の劣化以外の要因も含めてどう取り込むかが課題である。
- ・ 大規模更新を実施する場合には通行止め等に起因する交通への影響があり、ネットワーク論と組み合わせて方針を考える必要がある。
- ・ 阪神圏では東海・東南海・南海の連動地震への迅速な対策が求められており、道路ネットワーク機能の維持の観点からも、そのリスクについて検討・評価の必要がある。
- ・ 建物と一体となっている構造物については建物側の機能の陳腐化によって更新せざるを得ない状況が予想される。大規模更新の事業規模を議論する場合には考慮に入れないといけない。
- ・ 有ヒンジPC橋は長期的視点で考えると好ましい構造でなく、架け替えを考えるべき。

以上